



## 【緊急】りんご黒星病 DMI 剤耐性菌発生に係る対策

本年6月に長野県中信地方で、「りんご黒星病 DMI 剤耐性菌」の発生が確認されました。黒星病は1975年（昭和50年）に長野県で初めて確認されて以来、りんご生産に大きな影響を及ぼしてきました。本年も市内各地に黒星病の発生が見られています。秋季感染拡大防止を含め、今一度園地の状況を確認し、今回記載の内容を参考にし、必要な対策を実施してください。今後の蔓延を防ぐために数年かけての撲滅対策が急務です。

### 【黒星病 DMI 剤耐性菌発生の経過（H30）】 \* 県発表抜粋

- 本年を含め過去十数年、黒星病の発生がほとんどみられない中信地域において、DMI 剤耐性菌の発生地から導入したりんごの苗木で黒星病が多発しているのを確認。
- 黒星病発生園では、DMI 剤を含む慣行防除を実施しているが、防除効果が低いことを確認。
- 松本地域で発生した黒星病菌は、既報の DMI 剤耐性菌と同様の遺伝子変異が認められた。
- 黒星病 DMI 剤耐性菌は、下表の QoI 剤に対しても耐性を同時に獲得し、たとえ適期に散布しても効果は見込めない。

DMI 剤の主な農薬名：オンリーワンフロアブル・スコア顆粒水和剤・アスパイア水和剤（混合剤）等

QoI 剤の主な農薬名：ナリア WDG、フリントフロアブル、ストロビードライフフロアブル

### 【重要】 秋の黒星病蔓延防止対策

黒星病の感染は、真夏は一旦停滞しますが、秋に再び活発化します。中野市内には、5月末頃に感染したと見られる新梢先端2~3枚目の葉に病斑が数多く散見されます。この被害葉は次年度の『黒星病の源』になります。秋季の薬剤散布を強化すると共に、被害葉が多い園では夏季にできる下記の対策を徹底してください。

- ① 被害葉を早めに摘み取り、園外へ持ち出し、焼却・土中埋没等の処理を行う
- ② 被害落葉は拾い集めて、焼却・土中埋没・攪拌等の処理を行う
- ③ 9~10月上旬までの薬剤散布を強化する ⇒ 予防効果主体のアリエッティ C 水和剤、ストライド顆粒水和剤、ベフラン液剤等を一定の間隔で散布を進める。
- ④ 徒長枝除去等を行い、薬液の通りやすい環境を整備する

### 【お盆後~10月上旬までの薬剤散布（殺菌剤のみ記載） 予定】

8/15~20：フリントフロアブル（QOI 剤）に『アリエッティ C 水和剤 1,000 倍』を加用し強化

9/1~5：ストライド顆粒水和剤

9/15~20：ベフラン液剤

10/1~5：ベフラン液剤 又は アリエッティ C 水和剤

- ① 次年度黒星病密度抑制のため、収穫の終了した早生種も含め、10月上旬まで散布を徹底する。
- ② ベフラン液剤・ダイパワー水和剤に含まれる成分イミノクタジンは開花期以降は年間使用回数は 3 回迄です。使用過多に注意ください。
- ③ アリエッティ C 水和剤・オーソサイド水和剤・オキシラン水和剤等に含まれるキャプタン成分の年間使用回数は 6 回迄です。使用過多にご注意ください。
- ④ 各時期の詳しい薬剤名・対策は時期の果樹特報のなかでお知らせしていきます。

👉 8月中旬の定期散布は果樹特報 No10 をお読みください。